

理念 (3つの使命)

- 1 患者・利用者の自立を支援し、適正な医療と良質な看護・介護を提供する。
- 2 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
- 3 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

医療法人社団 千春会

千春会病院は病院機能評価 (Ver.5) の認定を取得しました

千春会病院では、平成19年8月20日に病院機能評価の認定を取得しました。

『患者本位の医療』が声高に叫ばれる昨今、当院では、以前より『適正で良質な医療・看護の提供』に努めてまいりましたが、改めて、学術的・専門的観点から第三者機関である財団法人日本医療機能評価機構の客観的な評価を受けることに致しました。

病院機能評価の受審に際しては、地域における役割、患者さまの権利と安全確保をはじめとした6つの領域からなる全600項目に及ぶマニュアル・手順書・規定・実績などの自己評価を全職員が真剣に取り組んだ結果、当院の問題点・課題が把握できました。これら改善すべき事柄につきましては、訪問審査時にサーベイヤーから助言もありましたが、当院が実施してまいりました医療・看護が適正で良質に提供されていることが再確認できました。

受審の準備中、他部署との意見交換・コミュニケーションが以前より確実に増え、時に意見の対立などもありましたが、職員の自覚と意識の向上が図れるなどの思わぬ副産物もうまれました。

病院機能評価の認定期間は5年間ありますが、それに甘んじることなく日々進化を遂げる医療・看護の質向上に、私たちも日々研鑽を積み、平成18年に取得したISO9001:2000のPDCAサイクルを活用して、より適正で良質な医療・看護の提供のため、一層の努力をしております。



病院機能評価とは

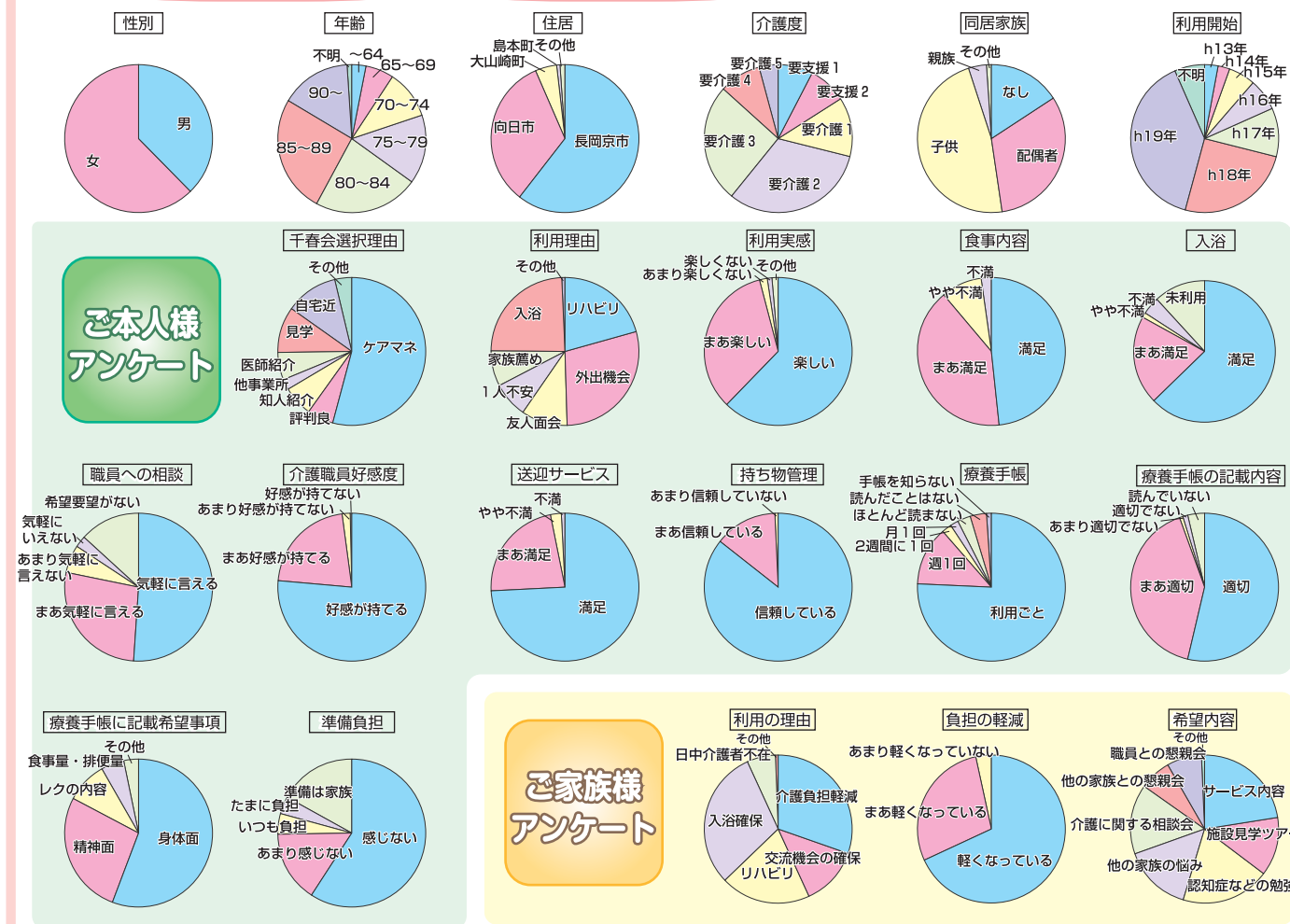
わが国の医療システムの提供は、まず量的に整備されてきました。しかし近年、高齢化の進展、疾病構造の変化、医療技術進歩等に伴い、医療に求められるものが高度化・多様化し、医療提供システムを質的に保証することが要求されるようになりました。国民の医療に対する信頼を揺るぎないものとし、その質の一層の向上を図るために、病院を始めとする医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかとなった問題点の改善を支援する第三者機関として、平成7年、財団法人日本医

療機能評価機構が設立されました。平成19年8月20日現在、全国8,892病院のうち、2,394病院が認定を受けています。

当法人が平成18年に取得したISO9001:2000は、業務の標準化と品質を保証するシステムで、相対評価として継続的改善を目指すのに対し、病院機能評価は医療の質の具体的目標の絶対評価であるという相違があり、異なる視点での第三者評価の組み合わせは、医療の質をさらに向上させると考えます。

千春会 介護部門利用者様アンケート調査のご報告

(2007年7月度 実施)
回収率 67.2%



詳しくはホームページをごらんください。
<http://www.senshunkai.or.jp/>

今回、初めて介護部門の利用者さまアンケート調査を実施させていただきました。結果として、概ね好印象をもっていただけており、満足いただいている内容でした。また、頂戴いたしましたご意見・ご希望を真摯に受け止め、全介護スタッフがより一層の改善に努めてまいります。ご協力ありがとうございました。



千春会バレーボールチーム 初出場ながら第3位の快挙!

京都私立病院協会 京都府知事杯争奪第30回病院対抗女子バレーボール大会に於いて、千春会バレーボールチームが初出場ながら、予選から破竹の5連勝を飾り、見事、第3位に輝きました。



次年度の大会ではシードチームになります。2年目で追われる立場になりますが、レベルアップをはかり、優勝を目指して頑張ります。これを機会に、バレーボールに心得のある方・興味のある方、是非入部お待ちしております。

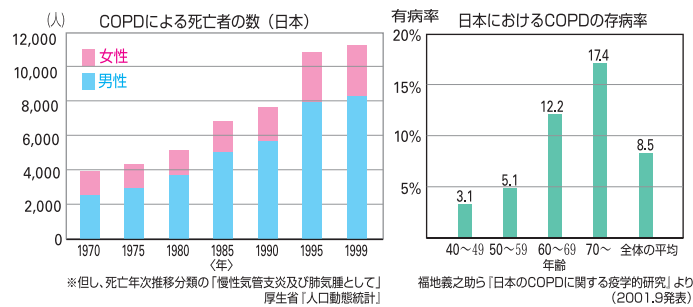
患者さまの権利と義務

- 当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。
- 1 患者さまは誰でも、適正な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
 - 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
 - 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
 - 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
 - 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
 - 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

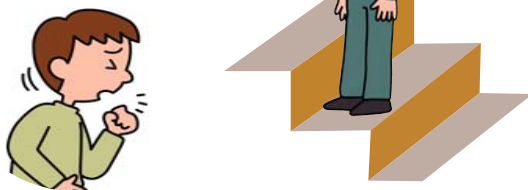
- また適正な医療と良質な看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。
- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
 - 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
 - 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。

COPD (慢性閉塞性肺疾患) について ~12人に1人がかかる肺の生活習慣病~

COPD (慢性閉塞性肺疾患) は、通常聞きなれない病名ですが、従来は慢性気管支炎、肺気腫などと呼ばれたものの総称として近年使われるようになりました。肺の生活習慣病ともいえる病気で、日本で潜在患者はなんと40歳以上の8.5%、530万人を超えともいわれています。またCOPDによる死亡者数も近年増加しております。



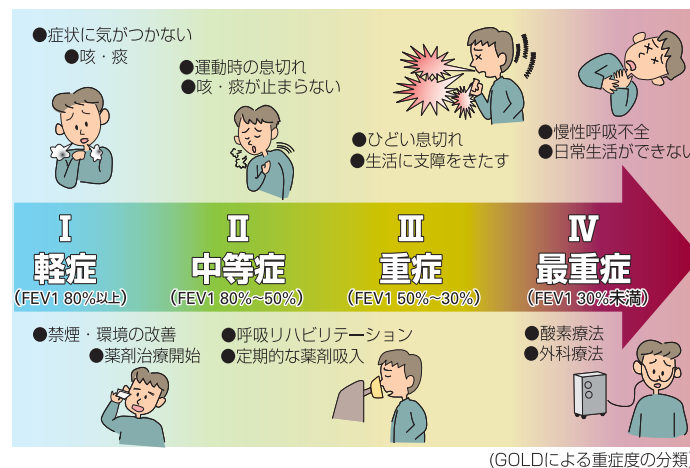
症状は、階段や坂道を登ると息切れがしやすくなってきた、咳やタンがでるなどで、多くの方は“歳のせい”などと治療せず放置されていることがほとんどというのが現状です。



最大の原因は喫煙ですが、タバコを吸わない人でも発症する事から、受動喫煙の危険性が示唆されています。



COPDは進行性の病気ですが、禁煙すること、適切な薬剤治療、呼吸リハビリテーションなどで病状の進行を抑え、症状を緩和することができます。COPDが進行すると、息切れなどの症状が徐々に進行し、着替えなどのわずかな日常の動作すら出来なくなります。最重症となると酸素吸入や呼吸を助ける器械が必要となります。



次のチェック表で当てはまる項目が3つ以上あればCOPDの可能性が高いと思われます。早めにご相談ください。

COPD (慢性閉塞性肺疾患) 自己チェック

- 60歳以上である
- タバコを吸っている
- 痩せている
- すぐに息切れするようになった
- 天候により、せきがひどくなることもある
- 風邪をひいていないのに痰がからむことがある
- アレルギー症状がある
- 朝起きてすぐに痰がからむことがよくある
- 喘鳴(ゼイゼイ、ヒューヒュー)がよくある



千春会病院 副院長 糸井 真一

管理栄養士からのワンポイントアドバイス (その4)

食事をゆっくり食べてメタボリックシンドローム予防!

食事をよく噛みながら時間をかけて食べると、満腹中枢に信号が伝わり、満腹感が得られます。しかし、「早食い」だと満腹中枢に信号が伝わる前にたくさんの量を食べてしまい、食べ過ぎの原因になります。また、「早食い」は血糖値が急上昇し、食べたものの吸収率が高まり、結果的に脂肪が貯まりやすい状態になります。

周りの人より食べるのが早いと感じた方は、意識してゆっくり食べることを心がけましょう。

- ゆっくり食べるポイント**
- 単品メニューより主食・主菜・副菜のそろった定食メニューを選ぶ
 - 野菜料理や汁物から箸をつけるように
 - 一口30回くらい噛むつもりで

単品メニューは早食いのもと

主食・主菜・副菜のそろった定食メニュー

まずは野菜や汁物から

ゆっくりと食事を味わうことで、食材の持ち味がわかり、薄味でおいしく食べられるようになります。

もくもく... 一口30回

ごちそうさまでした



谷中 管理栄養士

ここに響く介護があります 介護部門からのお知らせ

千春会では、介護の必要な方それぞれのご事情に合わせて対応できる、さまざまな介護サービスを提供しております。お気軽にご相談ください。

ホームヘルプ事業部 フリーダイヤル 0120-21-8599

千春会居宅介護支援事業所
せんしゅんかい訪問介護センター

せんしゅんかいデイケアセンター

せんしゅんかいデイサービスセンター友岡

せんしゅんかいデイサービスセンター滝ノ町

せんしゅんかい訪問介護センターみなせ

千春会 介護複合施設 上植野

「千春会 介護複合施設 上植野」が1周年を迎えました

昨年9月12日にオープンした「千春会 介護複合施設 上植野」が、皆様のご協力もありまして、無事、開設1周年を迎えることができました。この施設は、「居宅介護支援事業所、訪問介護、デイサービス、ショートステイ」という4つの事業所を同一敷地内で開設することにより、総合的に利用者さま・ご家族さまの在宅生活を支えていくという方針の下、運営して参りました。

特に、ショートステイにつきましては、法人での運営並びに私自身としても24時間365日の事業所運営が初めてでしたので、様々な不安を抱えてのスタートとなりました。オープン当初は正直手探りの状態でしたが、現在はスタッフの努力もあり、安定したサービス提供ができる体制になってきたと感じております。

現在、各事業所とも定員一杯で、ご利用をお待ちの方が多数おられご迷惑をお掛けしている状態であり、今更ながら社会的なインフラとして、地域を支える使命を強く感じております。

今後は、法人介護部門の理念である「良質な介護」をより実現するために、利用者さま・ご家族さまに対してアプローチを行い、皆さまが充実した生活を送れますように様々な問題を解決していく「提案できる事業所」を目指して、運営していきたいと考えております。

今後ともご指導・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



千春会 介護複合施設 上植野 総責任者 入谷 卓也



ボランティアの方と歌を楽しむ利用者の皆さん



昼食はバイキング料理で

作業療法士の佐藤主任と管理栄養士の谷中主任 高齢者教養講座「健康寿命を延ばそう!」で講演

~ 9月21日(金) 午後2時~3時30分;長岡京市中央公民館 ~

長岡京市と市老人クラブ連合会主催による高齢者教養講座「健康寿命を延ばそう!」が中央公民館で開催され、リハビリテーション科作業療法士の佐藤主任と栄養科管理栄養士の谷中主任の両名が講師として招かれ、約180名の参加者を前に講演しました。

高齢者の多くが転倒や認知症で要介護状態になるなか、「少しでも健康で自立した生活を送ってもらおう」ことを目的として開催されました。

佐藤主任は、簡単なストレッチ体操を交えながら、「筋力トレーニングの効果は、週二回以上の運動を半年以上続けてこそ効果がある」とし、生活習慣病の予防とともに老年症候群(高齢による衰弱・転倒・骨折・生活機能の低下等)を積極的に予防することが大切として、約1時間の講演をしました。

谷中主任は、「サプリメントで栄養補給するよりも食事パターンが大切」、「3・3・3元気の秘訣、食べるコツ」と題して、1日3回しっかり食べる・3色そろえて食べる(タンパク質、炭水化物、ビタミン・ミネラル)・3つの器を並べて食べる(1の器【主食:パン、ごはん、めん類】2の器【主菜:魚、肉、卵、大豆製品】3の器【副菜:野菜料理】)とし、食事パターンの改善例を紹介しながら、健康寿命の基本は「食」であり、「食べることから生きがい」と講演をしました。講演後の質疑応答も活発に交わされ、時間超過する程の盛況でした。

